地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

	項　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	**○地域密着型サービスとしての理念** 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基本としながら自分たちの言葉で,日々の介護となる理念を作りあげている。	○	入居者本位・尊厳・民主的運営・接遇を盛り込んでいいくことを、これまで以上に考慮したい。
2	**○理念の共有と日々の取り組み** 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員が理念を理解しており、それを念頭において業務にあたっている。	○	今後とも全職員が理念の意味をすることを理解し、心のこもった介護を続けていきたい。
3	**○家族や地域への理念の浸透** 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの運営理念や役割が家族や地域に理解していただけるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。（広報誌等にて）	○	町内会長を通して、ホームに足を踏み入れる機会を増やしていく。
2．地域との支えあい				
4	**○隣近所とのつきあい** 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	保育園の園児が散歩を兼ねて立ち寄っていただいている。運営推進会議や地域の盆踊りの際に、ホームに遊びにきていただけるようにお願いしている。	○	「ふれあい昼食会」に同席した方に、ホームの様子を伝え、遊びに来ていただけるように声をかけている。
5	**○地域とのつきあい** 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福祉センターでの「ふれあい昼食会」・小学校の運動会・保育園の夕涼み会・起業祭等に参加している。	○	そこで同席した方々に、ホームに足を運んでくださいとお願いしている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	**○事業所の力を活かした地域貢献** 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎年、盆踊り会場の設営・片付けに職員が参加している。法人主催の「いきい講座」にホーム職員が講師として参加している。	○	地域の高齢者に役立つしくみを今以上に構築していきたい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	**○評価の意義の理解と活用** 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ご家族・運営推進会議で委員の皆様・ご家族には自己評価・外部評価をお渡ししている。ホーム入口に自己評価・外部評価を置いており、訪問者が自由に手に取れるようにしている。	○	今回以降の評価の改善点の取り組みについても配布したい。
8	**○運営推進会議を活かした取り組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約3ヶ月に1度のペースで委員会を開催している。そこでホームでの日常生活、職員の研修内容などを報告し、意見を頂いている。	○	委員会では意見というより、評価の意見が多い。様々な意見を議事録で全職員に報告し、職員会議の中で話し合っている。
9	**○市町村との連携** 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターに入居者と共に出向いたり、市民センターの行事にも参加している。	○	地域の方と触れ合える場所の提供など、市の方と共に増やしていきたい。
10	**○権利擁護に関する制度の理解と活用** 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	年に1度、職員の代表が研修を受け、それを全職員に報告している。	○	研修会があれば積極的に参加したい。
11	**○虐待の防止の徹底** 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待・身体拘束廃止に関する外部の研修・セミナーの受講と受講者による内部伝達研修を実施している。	○	ボランティアや実習生の受け入れ・地域社会との交流を通じて、虐待の抑止、職員の意識改革を図っている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．理念を実践するための体制				
12	**○契約に関する説明と納得** 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を十分に取って、説明を行っている。解約時にも、手続き(とくに返還金について)は文書を通して詳しく説明を行っている。	○	今後もお互いが十分納得いくまで、時間を作って説明を行っていきたい。
13	**○運営に関する利用者意見の反映** 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に「御意見箱」を設置し、年長者の里オンブズマン委員に伝わるしくみになっている。	○	現在までに投書の報告なし。オンブズマンには郵送でも可能であることの周知徹底を図る。入居者の会話の中で希望、不満などが垣間見える。そのような小さな意見も取り入れている。
14	**○家族等への報告** 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月初めに、入居者のご様子を記した手紙をご家族に送付している。ホームでの暮らしぶりが分かると好評である。	○	入居者の小さな変化も見逃さずに、家族に報告していく。
15	**○運営に関する家族等意見の反映** 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入口に「御意見箱」を設置し、年長者の里オンブズマン委員に伝わるしくみになっている。	○	文書でなくとも、会話の中で不満・意見を取り入れて改善・活用できるようにしたい。
16	**○運営に関する職員意見の反映** 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヵ月に1回職員会議を開いている。事前にアンケートを取り、それに基づいて話し合いを行っている。	○	管理者・リーダー職員は職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努める。
17	**○柔軟な対応に向けた勤務調整** 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	季節・入居者のペースに合わせて、勤務時間を流動的にしている。	○	勤務時間を固定せずに、入居者の生活リズムに合わせた勤務時間にする。
18	**○職員の異動等による影響への配慮** 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年に1度、人事異動がある。認知症を理解し、対応できる人事にしている。入居者・ご家族居は事前に報告・説明している。	○	一身上の都合による退職は仕方ないが、人事異動は必要最小限、入居者・ご家族に影響がない程度で行いたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	**○人権の尊重** 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員につても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	資格はヘルパー2級以上を必須としている。性別・年齢は問うていない。	○	男性職員の少ない職場であるため、男性の採用を行ないたい。
20	**○人権教育・啓発活動** 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	採用時に幹部職員によるオリエンテーションを行っている。	○	採用時だけでなく、随時取り組んでいる。
21	**○職員を育てる取り組み** 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修を全職員には告知していない。内部研修が行われるときは全員参加を条件としている。	○	外部研修にも積極的に参加したい。
22	**○同業者との交流を通じた向上** 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の訪問、問い合わせはあるが、職員が他施設を訪問する機会はない。しかし、福祉大学の助手が毎月1回入居者の様子を観察に来ている。	○	職員が他施設に出向く機会を作っていかなければならない。
23	**○職員のストレス軽減に向けた取り組み** 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	不定期に個別面談を行っている。	○	月に1度は個人面談を実施していきたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	**○向上心を持って働き続けるための取り組み** 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況・勤務年数によって時給のアップをしている。	○	有能な職員については、正職員や責任者へ登用できるようにしたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	**○初期に築く本人との信頼関係** 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	毎日入居者と1対1でお話しする時間を作っている。その言葉から希望・不満を把握できるようにしている。	○	ケアプランにも「傾聴」を取り入れていきたい。
26	**○初期に築く家族との信頼関係** 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約前までは管理者、リーダーが窓口となっているが、入居後は、それぞれの担当職員を中心に、面会時に話をする時間を設けている。	○	担当職員が休日のときもある為、申し送りノートで全職員が把握できるようにしている。
27	**○初期対応の見極めと支援** 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームは複合施設であるため、必要に応じて他施設の利用も視野に入れている。	○	現在のところそのような状況になったことはないが、他事業所とのネットワークを構築し、入居者・ご家族が安心できるホームを目指す。
28	**○馴染みながらのサービス利用** 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度も足を運んでいただき、慣れた頃に入居の手続きをするようにしている。	○	入居を急がせるのではなく、入居希望者・ご家族に見極めていただいてから、入居できるホームでありたい。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	**○本人と共に過ごし支えあう関係** 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の大先輩であり、学ぶことが多い。言葉遣いなど、入居者に注意されることもあり、反省の糧にしている。	○	入居者から学ぶことが多い。そのような場面に遭遇したときは、素直に受け入れている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	**○本人を共に支えあう家族との関係** 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの出来事、本人の小さな出来事などを随時報告している。また、レクレーション時には職員・ご家族・入居者で出かける企画を立てている。	○	ご家族の力なしではホームは成り立たない。ご家族にも積極的に協力を求めていく。
31	**○本人と家族のよりよい関係に向けた支援** これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事等のある時は、ご家族が参加できるような企画をし、訪問時には散歩の声かけを行っている。	○	遠方より来園されたときは、ホームで寝食を共にされている。
32	**○馴染みの人や場との関係継続の支援** 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居する前の施設に出向き、旧友に会ったり、職員と接している。相手方からの訪問もある。	○	地元ではない入居者がいるが、時々は馴染みの場所に出かける機会を作りたい。
33	**○利用者同士の関係の支援** 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士で馴染みの関係ができているので、散歩や外出は一緒に行けるようにしている。孤立するタイプの方には職員が援助している。	○	口論、諍いが生じた場合は職員が中に入り仲裁にあたっている。
34	**○関係を断ち切らない取り組み** サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	数カ月に1度電話で連絡を取っている。その際はホームに遊びに来てくださるようにお願いしている。	○	その方の自宅付近を通る際は、顔を出すなどして付き合いが途切れないようにしたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
35	**○思いや意向の把握** 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活パターン、ふとした瞬間に笑顔を見せる場面がある。そのような場面は記事に残しており、職員が共有できるようにしている。常に1対1でお話しする機会を設け、傾聴に心掛けている。	○	本人が希望を示しにくい方が多い。ご家族の希望を受け入れることが多かったが、今後本人の希望も大いに取り入れたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	**○これまでの暮らしの把握** 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に一応の生活歴を伺うが、ご本人のことをまだ知らないため奥深くまで踏み込めない。入居されてから随時お話しさせていただく時間をいただき、そこで生活歴等の把握に努めている。	○	他事業所からの利用の場合、そこの担当者とつながりが希薄であるため、横の関係作りが必要である。
37	**○暮らしの現状の把握** 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の心身状況は日々変化しているという認識を持ち介護している。家事等の役割はその日の体調などによって振り分けている。	○	できることはやっていただいている(皿洗い・掃除等)。今後もできることはやっていただけるように援助していきたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	**○チームでつくる利用者本位の介護計画** 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとにサービス担当者会議を開催。本人・ご家族の希望などを聞くようにしている。会議時だけでなく、日頃の会話の中からも必要性を見出せるようにしている。	○	1人1人の応じたプランの作成に努めている。
39	**○現状に即した介護計画の見直し** 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとのプランの更新・変更を行っている。期間中に入院など状態に変化があった場合は、期間中であってもプランを見直している。しかし、小さな変化ではプランの変更はしていない。	○	本人・ご家族の要望・意見を十分に取り入れるように配慮している。
40	**○個別の記録と実践への反映** 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな発言や態度などを記事にしている。また、本人が発した言葉は常に記録している。	○	誰が見ても分かりやすいように記入の簡素化を図りたい。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
41	**○事業所の多機能性を活かした支援** 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設であるため、ホームの職員で落ち着かない場合は、他施設の職員に声をかけていただいたり、デイサービスのレクなどに参加している。	○	入院してホームに帰ってくるには医療面で不安がある場合は、老人保健施設を紹介している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	**○地域資源との協働** 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎週木曜日に歌会のボランティアの方に来ていただいている。	○	定期的な地域の方とのふれあい。
43	**○他のサービスの活用支援** 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	していない。	○	ネットワークの構築から努力していきたい。
44	**○地域包括支援センターとの協働** 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していない。	○	どのような協働が可能か、検討してみたい。
45	**○かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から現在の主治医(たつのおとしごクリニック)に懸っている方がほとんど。他院に罹りたい場合は医師に紹介してもらっている。	○	入居者が他院の主治医を希望する場合は、主治医を変更できるように、たつのおとしご医師に相談している。
46	**○認知症の専門医等の受診支援** 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医は認知症の専門である。	○	疑問や不安な点は主治医に相談して、助言・指導を得ている。
47	**○看護職との協働** 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当法人訪問介護ステーションと24時間提携している。緊急時は連絡がとれる。	○	週に1回看護師が入居者の様子を見に来ている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	**○早期退院に向けた医療機関との協働** 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主にケアマネが病院担当者と連絡をとっている。	○	入院した場合、職員の誰かしらが毎日交代でお見舞いに行き、状態を全職員に報告している。
49	**○重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族・医師とどこまでグループホームでの介護ができるかを話し合っている。	○	入院が長期にわたる場合に限り、話し合いの場を設けている。早い段階で重度化した場合の方針を決めるようにしたい。
50	**○重度化や終末期に向けたチームでの支援** 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご家族・医師とどこまでホームでの介護ができるかを話し合っている。	○	重度化した場合、医師と連携し、より良いケアができる施設・病院を探している。
51	**○住み替え時の協働によるダメージの防止** 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ホームでの生活の内容は十分に転居先に伝えている。しかし、ほとんどの場合が病院というケースが多いため、ホームでの生活をそのまま継続するというのは難しい。	○	文書による伝達が主であるため、会って情報を交換できるようにしたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**				
52	**○プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	マナーアップ研修は全員が受講済み。会議や管理者から随時注意を行っている。個人情報保護については、法人の規程に則って指導している。	○	一人ひとりの誇りやプライバシーの配慮を前提に外部の視線・☑機能を積極的に導入し、オープンな雰囲気を作るように心がけている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	**○利用者の希望の表出や自己決定の支援** 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中でできることとできないこと、やりたいことを見極めている。自立支援を念頭に掲げている。	○	説得ではなく納得を優先するように心がけていく。
54	**○日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の食事の時間・入浴時間等で職員の勤務時間を決めている。夏場・冬場で勤務時間を変更することもある。	○	入居者の生活のペースに合わせて柔軟に対応している。今後も続けていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	**○身だしなみやおしゃれの支援** その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の望む美容院へは一部の方を除いて行っていない。レクレーションの外出をかねてショッピングセンター内の床屋に行っている。好評である。外出を希望されない方は施設内の出張理美容に行っている。	○	希望される方がいれば、行きつけの場所に行けるように援助したい。
56	**○食事を楽しむことのできる支援** 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・片付け・皿洗いは職員と入居者が一緒に行い、台拭き・盆拭きは入居者がしている。入居者が主体となって行えるように援助している。	○	当ホームでは食事作りは行っていない。時折お菓子などをつくる機会を設けているが、回数が少ないため頻度を増やしたい。
57	**○本人の嗜好の支援** 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物・おやつは一緒に買い物に行ったり、ご家族に注文している。現在のところ酒、たばこを要望された方はいない。	○	体重制限をしている方でも低カロリーのおやつをお願いしている。
58	**○気持よい排泄の支援** 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者の排泄パターンに応じて支援している。日中はトイレでの排泄を必ず行っている。	○	自尊心を傷つけないように援助している。水分摂取量や小さなサインを見逃さないように尽力している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	**○入浴を楽しむことができる支援** 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯を9時から19時に設定している。夏場は遅くに入られる方もいるため、20時頃まで入浴をしている。午前中に入られる方もいれば夕方に入られる方もいる。	○	近くに温泉施設があるため、そのような場所で職員・入居者がふれあいの場をつくれればと思っている。
60	**○安眠や休息の支援** 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の眠いサイン・疲れたサインなどを把握しており、ソファーに誘導したり、居室にお誘いしている。	○	高齢の方などは午睡を促している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	**○役割、楽しみごと、気晴らしの支援** 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出や外食を希望される方が多い。希望された場合はドライブや散歩・買い物に出かけている。	○	ピアノが得意な方には、他施設にピアノを弾きに行ってもらっている。
62	**○お金の所持や使うことの支援** 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い程度のお金を所持されている方が2名いる。外出時は持って出て行かれる。	○	金銭を管理することが難しい方が多い。数百円でも本人が持てるように援助したい。
63	**○日常的な外出支援** 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を希望されればドライブや散歩に出かけている。雨の日は館内を散歩している。	○	公用で市役所や区役所に出かける際も、必ず誰かしら一緒に出かけるようにしている。
64	**○普段行けない場所への外出支援** 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生会を兼ねて外食や外出を行っている。	○	先日は、誕生者と職員で外食とショッピングを楽しまれました。もっと機会を増やしたい。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	**○電話や手紙の支援** 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをされている方が1名。電話を希望される場合、居室に設置されている方はそこから、ない方は公衆電話を使用されている。	○	全員が手紙のやり取りができるように援助していきたい。
66	**○家族や馴染みの人の訪問支援** 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	20時から6時の間の訪問を希望される場合は事前にホームへ連絡していただくようにしている。それ以外の日中は気軽に立ち寄れるようにしている。	○	友人の訪問が少ない。気軽に立ち寄れるように配慮していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	**○身体拘束をしないケアの実践** 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヵ月に1度職員会議の際に、勉強会を実施している。	○	管理者が中心となり、身体拘束に触れるのではないかという行為を全て注意・排除している。
68	**○鍵をかけないケアの実践** 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけない。外出される際に、施錠を希望される方は鍵をかけている。ベランダ側のドアもほとんどの場合開放している。	○	ホーム入口も施錠はしていない。夜間のみ防犯のため施錠している。(20～6時)
69	**○利用者の安全確認** 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室で過ごされている方で危険を伴いそうな場合は、本人の許可をいただき開放したり、職員が一緒に過ごしている。	○	夜間は居室玄関扉は閉めているが施錠はしていない。入居時に夜間の施錠はご遠慮いただいている。
70	**○注意の必要な物品の保管・管理** 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険だといい何でも排除してしまうと、全く生活感がなくなってしまう。お1人お1人の能力を見極めて、本人管理をしている。	○	ライターや刃物、とがった物は預かっているが、それ以外は本人が管理されている方もいる。
71	**○事故防止のための取り組み** 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	小さな事故「ヒヤリはっと」を報告し、職員全員で共有している。	○	もっと知識を深めるために、事故・火災についてのレポート提出などを考えている。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	**○急変や事故発生時の備え** 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員が応急手当てができる。研修も全員が受けている。	○	応急手当普及士の資格取得に努めたい。
73	**○災害対策** 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災意識は常に持っている。消防訓練は年に3回行っている。地域と合同では行っていない。	○	災害時には地域の協力が不可欠である。そのためにも地域と合同の訓練が必要である。
74	**○リスク対応に関する家族等との話し合い** 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	足の痛みを訴えたり、処方されている薬が変わった場合などは、ご家族に連絡し、転倒の可能性があることを伝えている。	○	数年前まで職員が転倒を恐れて抑圧的になっていたが、身体拘束や虐待の勉強を通し、転倒を回避するためにさりげなく付き添うなどしている。食品の賞味期限の把握をしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	**○体調変化の早期発見と対応** 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	言動・体調・歩行などに異変があれば、医師に報告し必要があれば受診し、早期発見に努めている。	○	新人職員にも早期発見ができるように、常日頃の入居者の状態を把握できるようにさせている。
76	**○服薬支援** 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解している。わからない場合や不安な点は医師に確認している。	○	副作用が疑われる場合は医師に相談している。
77	**○便秘の予防と対応** 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	緩下剤はなるべく使用しないようにしている。飲食物の工夫と排便時は腹部マッサージや肛門マッサージを行う。	○	今後も薬に頼らずに援助していく。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	**○口腔内の清潔保持** 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	お1人でされている方も職員がチェックしている。頬に残渣物がたまり易い方はガーゼで拭き取っている。	○	要望があれば歯科の応診を受けている。
79	**○栄養摂取や水分確保の支援** 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の気になる方は日誌に記録している。水分量は全員に1日2回、お茶の時間を設けている。	○	夏場は水分量を重視している。本人に合わせた飲み物で対応している。
80	**○感染症予防** 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	内部研修会を実施している。毎年、インフルエンザは職員・入居者共に全員が接種している。手洗い・うがいをはじめ、入浴時には足の指を入念に洗う・乾かす・靴は清潔にしておく・洗濯は個別で洗うことにしている。	○	感染症予防マニュアルあり。職員熟読している。
81	**○食材の管理** 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の研修にも参加。手洗い・うがいの徹底は勿論、週に1度はキッチン周りの消毒、食器の消毒をしている。	○	玄関に消毒を設け、外部の方には消毒をしていただいている。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
82	**○安心して出入りできる玄関まわりの工夫** 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入口には花を飾って、優しげな雰囲気を作っている。	○	施設入口で花を栽培しており、明るい雰囲気になっている。
83	**○居心地のよい共用空間づくり** 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気になるよう工夫し、使いやすく、くつろげる空間づくりをしている。	○	テレビを見る空間、本や雑誌を読む空間などを提供し、居場所を確保している。

項　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなど自分の座る場所が一定しており、そこでくつろいでおられる。	○	意思表示ができない方の対応
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使用されていた家具等を持ち込んでいただいている。	○	布団を使用されていた方は、生活スタイルを崩さないためにも布団を使用していただいている。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度・湿度を定期的にチェックし、冷暖房をしている。汚物は速やかに処理している。ホーム内には臭い対策のためオゾン装置が設置されている。	○	1日2回窓を開け換気をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に合わせて、高さや使い勝手が良いように工夫している。	○	混乱を避けるためにも、必要不可欠な居室の模様替えは行わないようにしている。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の状態に応じて、混乱を起こされるものに対してはすぐに改善している。	○	できることとできないことを見極め、本人のやる気を見出す。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダで入居者が花を育てている。	○	ベランダでバーベキュー等をしたい。今年はさつま芋を植えたので芋掘りをして焼き芋を焼きたい。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム八幡

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

ご家族との関係を大事にし、入居者とご家族が一緒に外出できるように援助している。昨年は、小倉で行われた認知症啓発大会に入居者・ご家族・職員で大会に参加。認知症に対する理解に乏しかったご家族も、理解を深められ、ようやく入居者の認知症を理解されたようである。ご家族が宿泊を希望されれば入浴や布団の提供をしている。